

公園内で見られる 植物

写真は11月26日(土)
自然観察会で見られた
植物です



ハゼノキ (ウルシ属)

果実からロウを取るのでロウノキともいう。ヤマハゼに大変よく似ているが、こちらは葉や枝が無毛なのが特徴。



ツルリンドウ (ツルリンドウ属)

果実は液果となり、ほぼ球形で紅紫色。柄は花のあと長くのびて残存する花冠よりつきだす。液果の頂には花柱が残っている。



ソヨゴ (モチノキ属)

果実/核果。直径約8mmの球形で、10月～11月に赤く熟す。



タンナサワフタギ (ハイノキ属)

葉/互生。葉身は長さ4～9cm、幅3～5cmの倒卵形。先端は急に尾状にやや長くかかり、基部は広いくさび形。ふちにはとがった粗い鋸歯があり、表面脈上に白い毛がある。



スイカズラ(スイカズラ属)

果実/液果。直径5～6mmの球形で、2個ずつ並んでつく。9～12月に黒く熟す。
名前の由来/子供たちが花の奥にある蜜をよく吸ったことからついた。



ヤブムラサキ (ムラサキシキブ属)

果実/核果。直径3～4mmの球形で、紫色に熟す。下部は毛が密生した萼片に包まれる。



カマツカ (カマツカ属)

果実/ナシ状果。長さ8~10mmの倒卵形または楕円形で、10月~11月に赤く熟す。



ヤマコウバシ (クロモジ属)

果実/液果。直径7mmほどの球形で、10~11月に黒く熟す。種子はほぼ球形。隆起線が2本ある。名前の由来/枝を折るとよい香りがするところからつけられた名前。



ツルシキミ (ミヤマシキミ属)

山地の上部の林内に生える。幹の基部が地上をはうのが特徴で、葉や花、果実などはミヤマシキミとほとんど同じ。



ドウダンツツジ (ドウダンツツジ属)

葉は真っ赤に紅葉するので庭木につかう。